

発行 市川市消防局

〒272-0021 市川市八幡1丁目8番1号

TEL 047-333-2111(代) FAX 047-333-8181

ホームページ <https://www.city.kichikawa.chiba.jp/fire/>

火災・救急件数(5月末日現在)

◆火災 64件【前年比 -16件】

◆救急 7,978件【前年比 -133件】

お年寄りを 火災から守ろう!

最近、毎日のようにテレビや新聞等で火災事故のニュースが伝えられています。建物火災のほかでも住宅火災が圧倒的に多く、平成18年中に住宅火災で亡くなった方は全国で約千二百人で、そのうちの約6割が65歳以上の高齢者です。高齢化社会が進むにつれて、お年寄りだけの世帯やひとり暮らしのお年寄りが増え、その数は増加傾向にあると予想されます。

一番の原因は「逃げ遅れ」

高齢者に限らず火災で亡くなる原因で一番多いのが「逃げ遅れ」です。火災の発生時間を見たと、睡眠時間中である22時から翌朝6時までの時間帯の死者が約半数を占めており、火災の発生に気づかないために、逃げ遅れて亡くなる方が多いようです。火災に気がつくのは、煙や炎を見たり、物が焦げる臭いを感じたり、パチパチと何かが燃えているような音が聞こえるなど、五感による「こがはんとぞぞ」が、高齢者の場合には視力や嗅覚、聴力が低下し、火災に気づくのが遅れてしまったり、判断力や体力の低下により、万が一のときにすばい行動が取れないことも考えられます。火災の発生を早く知り、できるだけ早く逃げることが可能な環境を作ることが逃げ遅れによる被害者を減少させる有効な手段です。



お年寄りを火災から守るポイント

- ・火災を早く知るために、住宅用火災警報器を取り付ける。
- ・避難経路は違う方向で2つ以上考えておく。
- ・万が一、火災が発生したときにいち早く外に出られるように、寝室などの部屋はできるだけ1階に設けたり、出入り口の近くなど避難しやすい場所を選ぶ。
- ・安全に避難できるように、家の中の段差をなくしたり、廊下など避難経路に物を置かない。
- ・カーテンやじゅうたん、寝具、衣類(寝巻き)などは燃えにくい素材を使った防災製品を使用する。
- ・家の周辺に燃えやすいものはないかの確認と、家の中の火の元のまわりはいつも整理整頓する。

「着衣着火も増加しています」

調理中にコンロの火が身につき、衣類に燃え移る「着衣着火」も多く、他にももうすぐや冬場にも使用する暖房器具なども原因になります。衣類は一般に燃えやすい素材の商品が多いので、火を扱うときは

悪質な訪問販売に注意!

消火器と同様に、高齢者を狙って住宅用火災警報器などを高価な値段で勧誘し強引に販売する悪質な訪問販売員に注意してください。消防職員が住宅防火訪問などで、家庭に向うときは身分証明書としし消防手帳を提示しますので確認をお願いします。おかしいと思ったら、すぐに近くの消防署や消防局予防課まで連絡してください。



隣近所の協力体制を作る

もし火災が起きてしまった場合は、「火事だ!」と大声で叫んだり、大きな音を出したりして周囲に火災を知らせ助けを求めましょう。万が一のときには、家族はもちろんのこと隣近所で助け合える関係になっていくことが大切です。などんたんに隣近所の協力体制を作り、地域ぐるみで火災から守りましょう。



高齢者世帯住宅防火訪問がはじまりました!

消防局・消防団では今年4月1日から、高齢者の住宅防火対策として、75歳以上の世帯を対象にご家庭を訪問し防火に関するお話をさせていただきます。職員や女性消防団員の防火指導や住宅用火災警報器の説明などに、みなさん真剣に耳を傾けてくださっています。



地域の安全と安心を守る 消防団員募集中

- ◇ 応募資格 市内居住の18歳以上45歳未満の方
- ◇ 問い合わせ 施設整備課 電話333-2154 (夜間・休日は、333-2111(代)へ)
- ※ 応募者多数の場合は、面接等になる場合があります。



高齢者世帯住宅防火訪問を実施しています!

住宅火災による高齢者の被害が多くなっていることから、75歳以上の世帯を消防職員と女性消防団員が、防火指導や相談に伺います。

- 訪問の内容
 - ・日常生活での火災危険や防火指導
 - ・住宅用火災警報器や防災製品のお話
 - ・その他、消防・防災に関する悩み事や相談
- ※ 訪問の際は、消防職員が身分証明書(消防手帳)を提示します。
- 問い合わせ 消防局 予防課 333-2116 (夜間・休日は、333-2111(代)へ)



突然の集中豪雨に警戒

早めの準備を心がけて

集中豪雨とは

この時期は梅雨前線の影響で集中豪雨が起りやすいため、毎年全国各地で被害が後を絶えません。の集中豪雨には、限られた地域に対して短時間に多量に雨が降ることや、別名「ゲリラ雨」とも呼ばれています。気象学的に明確な定義はないのですが、目安として直径10㎏から数十10㎏の範囲に時間雨量50㎜を超える場合とされ、また台風など異なる場合とされ、崖崩れなどの土砂災害、洪水が起きやすくなると言われています。



原因は？

集中豪雨の原因のひとつとして、地表面が日射で温まっている時に、上空に寒気が流れ込むと上昇気流が発達しやすくなり、積乱雲が発生、発達を促して豪雨になります。これを大気が不安定であると言います。さらさらの時期の梅雨前線も含めてはかの

要素がいくつも加わると一時間に100㎜近い記録的大雨を長時間引き起します。都市部ではヒートアイランド現象が関係しているとも言われています。

消防局では

消防局をはじめとする防災機関は、このような災害に対応するため準備をしていますが、みなさんもテレビやラジオのほか、消防局テレホンガイド情報を参考に、早めの対策を心がけて下さい。

もしもく夏休み

宿泊先では非常口の確認を！

みなさん、夏休みの予定は決まりましたか。海や山へ泊りがけで出かけることも多いと思います。しかし、もしも宿泊先で火災にあつたら、なにも場所であわててしまわずに。次のように注意して楽しい旅にしてください。またお出かけ前には火の元の点検をお忘れなく。

宿泊先に着いたら、必ず非常口と避難経路を確認します。

また、大雨の隙道路などの水はけが悪い、被害が広がる恐れがあります。ご近所で協力し、清掃を心がけましょう。万一災害が大きくなり、危険が迫った場合は、市内一八五カ所のレスキューを通じて避難を指示する場合があります。その場合には隣近所助け合つて避難して下さい。



甲種防火管理新規講習

- ◇ 講習日 平成19年7月19日(木)・20日(金) 午前9時～午後5時
- ◇ 会場 市川市消防局 5階ホール(八幡1-8-1)
- ◇ 受付 6月19日(火)から各消防署で受付開始(電話受付不可)

- ※ 定員になり次第終了します。
- ◇ 受講料 4,000円(テキスト・資料代)
- ◇ 定員 120名
- ◇ 問い合わせ 予防課 電話 333-2116(夜間・休日は 333-2111)



編集後記

毎年梅雨が明けると悩まされるのが暑さ対策です。熱射病や日射病などで倒れる方、気分を悪くする方が多くいます。毎年市川市でも、炎天下や暑い場所での運動または作業中に具合が悪くなり救急車で運ばれる方が後を絶ちません。また、家の中であれば大丈夫だと思いませんか。実はそこも落とし穴があります。猛暑が続くと日に日に体力が消耗され、気づいたときには脱水症状に...と言ったこともありまので、早目の水分補給を忘れずに行ってください。一番大切なのは睡眠と栄養をしっかりとる事です。健康管理と暑さ対策を万全にし、この夏を過しませう。

消防局総務課広報担当

最後にこれだけは確認を
・火災以外の事故もありまので、宿泊先、外出先では携帯電話が使用できるか、事前の確認をお願いします。なお、大きな災害時は備え安否の確認方法を家族で話し合っておきましょう！

◇ 普通救命講習 ◇

- 日時 平成19年7月15日(日) 午前9時～12時
- 場所 八幡1丁目8-1 市川市消防局 5階ホール
- 定員 60名(無料)

※定員になり次第、申し込みを終了させていただきます。

※申込みは、7月7日(土) 午前9時から受付開始します。 消防局 電話 333-2111(代)



～一歩踏み出す勇気を～